V　その他

問52　抑留中の手記類や、使用していたもの、あるいは製作したもの等、現地に残してきたものがありますか

		≪人数≫	≪%≫
1　ある（具体的に）		226	7.3
	イ　住　所　録	28	
	ロ　死亡者名簿	20	
	ハ　日　　誌	63	
	ニ　私　　物	107	
	ホ　遺髪・遺骨	8	
2　ない		2,859	92.7
		計 3,085	100.0

問53　自分の人生のうち、抑留生活をどのように位置づけますか
（お考えになっていることを簡単にお書きください）

	≪人数≫	≪%≫
1　マイナスのみ	386	12.5
イ　人生最高の無駄であった		
ロ　飢えと寒さの残酷な生活は忘れない		
ハ　誰のために苦労したのか		
ニ　すべてが無駄であった。空白の時代が悔やまれる		
ホ　青春を無駄にした		
ヘ　苦痛は一生忘れない		
ト　悲惨な体験であった		
チ　一生のうちで一番むなしい期間であった		
リ　いやな思い出ばかりで思い出したくない		
ヌ　不運であった		
ル　人間性を無視したものである		
オ　人生の悪夢である		
ワ　悲しい体験、生涯心のむなしさは消えない		
カ　地獄の苦しみであった		
2　戦争の悲哀・平和の尊さ	238	7.7
イ　戦争は懲り懲りだ		
ロ　戦争が憎い、戦争はしてはならない		
ハ　二度と戦争はしたくない		
ニ　戦争の苛酷さを知った		
ホ　衣食住に苦しむことは不幸である		
ヘ　抑留の苦痛と平和の大切さを子供に伝えたい		

ト　戦争は地球上の犯罪である

チ　戦争は人類を不幸にする、平和を大切にしたい

リ　平和のため抑留体験を語り伝えたい

3　赤のレッテル	17	0.6

イ　共産主義の理念と実態のギャップを実感した

ロ　人生の選択の中で共産主義に走らなかったことは幸いである

ハ　共産主義の実態をみた

4　国と個人の関係	83	2.7

イ　千島抑留者を補償せよ

ロ　ソ連の非人道的行為は許せない

ハ　青春を無駄にした日本軍国主義を憎む

ニ　自由を奪ったロシアが憎い

ホ　政府は生存者、死亡者に責任をとるべきだ

ヘ　抑留の損失は大きい、ロシアから補償がもらいたい

ト　政府の態度は残念である

チ　政府は抑留者に応分の補償をせよ（ドイツを見習うべし）

リ　ロシアから補償金をとれ

ヌ　ロシアは法を守れ

ル　自営業のため年金もなく苦労している。政府は抑留補償をせよ

オ　ソ連の行動は人道上許されない

ワ　政府は強制労働を国家補償に利用した、補償せよ

カ　政府、赤十字は何をしたか

ヨ　恩欠者は不遇である

5　赤裸々の人間性	41	1.3

イ　人間の弱さを味わった

ロ　人間の赤裸々の姿を見た

ハ　「衣食足りて礼節を知る」を身にしみて感じた

ニ　よく生きて帰れたと思う

6　生命力の強さ確認	66	2.1
イ　生命力に自信がついた		
ロ　何を食べても生きることができる		
ハ　生きるための最低生活を知った		
ニ　飢餓と寒さに耐えることが生きることの条件と知った		
ホ　生きることの大切さを知った		
ヘ　体力に自信がついた		
ト　よくぞ生きて帰れた		
7　忍耐力・不屈の精神力	446	14.5
イ　いかなる状況でも生き抜く自信がついた（耐乏生活に対する自信）		
ロ　どんな仕事にも耐える自信がついた		
ハ　抑留の苦労を思えば何でもできると頑張っている		
ニ　衣食について不平を言わない		
ホ　貧乏生活に強くなった		
ヘ　我慢強くなった		
ト　生きることに自信がついた		
8　尊い経験・教訓	579	18.8
イ　苦しいときは、シベリアを思い出して頑張っている		
ロ　一生忘れることのできない経験		
ハ　苦しい経験を人生の教訓としている		
ニ　貴重な経験としている		
ホ　物の大切さを知った（食糧の大切さを知った）		
ヘ　人生を考える上で参考になった		
ト　苦しく不幸な体験をくり返してはならない		
チ　共産主義を知ったことは人生最大の経験		
リ　みじめな体験は人生の教訓になる		
ヌ　金銭で買えない体験		
ル　経験は今後の生活に役立つ		

9　その他	568	18.4
イ　生還の幸運に感謝する		
ロ　憎しみが骨髄に徹する		
ハ　国家と運命を共にしたとあきらめている		
ニ　抑留の辛さを身にしみて感じた		
ホ　抑留の苦しさが時の流れとともに風化されるのが残念		
ヘ　「権力」の二文字の恐ろしさを知った		
ト　ロシアに恨みをもっている		
チ　考えるとムカムカする		
リ　手記にして子孫に残したい		
ヌ　ロシアに復讐したい		
ル　ソ連は非人道的である		
オ　残された人生を世のために尽くしたい		
ワ　スターリンを憎む		
カ　ソ連のやり方は終生忘れることはない		
10　未記入	661	21.4
	計　3,085	100.0

① 人生への位置づけについては、抑留生活を前向きに捉えるもの(35.4%)、否定的・マイナスと位置づけるもの（12.5%）及び国家と個人の問題とするもの（2.7%）等に大別することができる。

② 前向き肯定的要素をみると、生命力の強さ（2.1%)、忍耐力・不屈の精神力（14.5%)、尊い経験・教訓（18.8%）となっている。

③ 否定的な内容をみると、抑留者の年齢構成は大正10年生まれ以降の者が1,797人（58.2%）を占めている。

これらの若者が貴重な青春を抑留により空費されたことの悔しさがにじみ出ている。

④ 国家と個人の関係については、政府は慰労金品の支給等で抑留者の労苦

に報いているが、抑留者はこれを不充分とし、なお強力な援助・補償を期待する声が強い。

⑤　その他（18.4%）の中には、ロシアに対する不信感・憎悪の念が強いことが認められる。

⑥　未記入者が661名（21.4%）と多いことも注目すべきことである。これは設問の趣旨が十分に理解されなかったことと、設問が抽象的で回答にとまどったこと等が原因であろう。